

議事録

名 称	高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会（第9回）		
日 付	2018年7月5日（木）	場 所	サニーマート 本社会議室
時 間	15：00～16：45	作 成	事務局：サニーマート 眞鍋
資 料	議題、出席者リスト、各分科会議事録ダイジェスト、カツオをもっと知ってもらうためのアンケートまとめ、高知県魚食普及活動まとめ&ホームページ資料、高知城歴史博物館講座 6/30 講義資料 高知新聞関連記事複数		
出席者（敬称略）13名			
（サニーマート）中村、（高知かつお漁業協同組合）中田、（明神丸）明神、（新生丸）松下、（明神船舶）明神、（土佐魚類）森國、本山、（高知工科大学）浜田、（石田祝稔事務所）山内、（高知県漁協協同組合）中元、（高知県水産振興部）田井野、（高知新聞）福田、（サニーマート・分科会事務局）眞鍋			
議題および意見 全議題において要点のみ記載			
<p>1. 開会にあたり （座長より）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当分科会の開催が前回から少し時間が経ってしまったが、県民会議への意識や熱量が失われているとかといったことを言われないう、各位においても再度取り組みと協力をお願いする旨の挨拶が行われた。 <p>2. 直近のトピックス、活動についての報告 （副座長、事務局より）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本分科会に関係するような活動やニュース記事について事務局より報告を行った。高知新聞等記事などがあるものは資料を配布し、個々の内容について、出席者からも感想を頂いた。【…】が見出し 【※】が記事あり <p>【中土佐町かつお祭り開催※】情報発信分科会が中心的に活動し、県民会議からも多く参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> シールを貼ってフェイスブックなどの投稿呼びかけも行った。 <p>【ペンシルカツオの流通問題※】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知新聞福田記者より説明を頂いた。（説明内容概要）フィリピンでは幼魚サイズのカツオが獲られておりそれらを日本企業が買っているという情報がある。ダシの原料として加工されてしまうと、どういったカツオだったのかは分からないため、それでも構わないという企業側の解釈があれば需要と供給が一致してしまう。カツオが孵化している北緯 20度あたりの外国から見れば、日本の唱えるカツオの回遊と資源への警鐘は異論である。そういった提言をしている一方で、幼魚を買っているのが日本ということならば、資源を守ろうとする提言にも説得力が薄れていってしまう。ペンシルカツオを獲ることは違法ではないものの、将来的な資源維持に大きな問題が出てくるということに対して、日本全体の姿勢として反対だと表していくべきであり、高知からそういった動きができれば望ましい。小売や流通においても活動に力を貸すべきかと考える。 福田記者が持参した現物を回覧、漁業者からも「見たことがない」といういった小さいサイズだった。 地元の小さい船が獲って、それを日本企業が買っており、原因を作っているのは日本企業だという理解になってしまいます。そういった資源に問題があるような商品は売らない、買わないという行動を作っていく、そこに繋げていくことが必要なのは理解できるものの、それぞれの解釈や損得が交錯するところであり、現時点の情報をもって、売らない、扱わないといった対策を早急に打つことは難しいだろう。 例えば出汁メーカーが自社製品にMSCなどの認証を取得するなどの対応で新しい理解や基準が生まれると消費者にとっても分かりやすい。 獲れる魚の中には小さいものも混ざるから、それらの売り先、利用法を考えているうちに、こういった二次利用の道ができていくというふう聞く。 時間がかかる問題かもしれないが、引き続き状況を見守り、粘り強い動きを模索していきたい。新しい情報などがあれば共有する。 			

【エコラベルへの挑戦※】

- 近海一本釣りでのカツオ、ビンチョウマグロに対し、環境や資源に優しい漁法である認証である「海のエコラベル＝MEC」の予備審査を受けることとした。本審査を受けるかどうかは状況を見て判断したが、付加価値を作っていける方向を模索していかなければならないという危機感がある。

【広漁丸転覆※】

- 事故の原因は調査中だが、台風崩れの荒れた天候のなかで三角波を2回続けて受けて横転したと聞いており、横転するのは非常に珍しいケースである。乗組員は救助され全員無事だった。船は数日後に沈没してしまい、この後に新たに建造するかどうかなどは決まっていない。

【城博講座※】

- 1回目はカツオの歴史について渡部館長より講座が行われた。
- 2回目は第151明神丸の明神船主による講座であった。会場は満席で好評だった。こういった情報をもとに参加者が増えていったのかは気になるところだが、興味を持ってもらうことができたのであれば、取り組んだ甲斐もあった。こういった機会は今までなかった。

【野市小学校での出前授業】

- 生徒数も多く、たくさんの小学生にかつおのこと、美味しさを知ってもらった。アニサキスの心配がありそうなので今回はタタキでの試食を行った。

【他分科会の動き】

- 日本遺産、カツオ祭り、講演、マイスター制度などについて進めていっている。
- 7/24 15時より、カツオ資源等の第一人者である仁平章さんの講演が予定されている。別途連絡を行うが世界と日本の状況などに詳しく、県民会議の目的でもある資源保護の入口でもある話であり、各位には是非参加をお願いしたい。

他にも【漁獲高前年度最低※】【うなぎ漁延長による危機※】【日本遺産始動※】の記事を紹介

3. 「カツオを知ってもらい取り組み」を深め、広げていくための意見交換

- ・ 前回の分科会にて意見のあった食育、知育等へのアンケートを実施し、各位の声をまとめた資料を配布。内容については各位で確認頂きたい。漁業者の声や今後の不安など、県民会議全体に波及できる声もあるため各会と共有したい。
- ・ この取り組みに関係して、豊かな海づくり大会を見越して、県でもホームページを立ち上げており、各漁協主体で行っている魚食普及の活動について田井野様より報告頂いた。
 - 分科会で考えていることと大きな違いがあるとも思えず、一緒に考えていけるところ、参考になるところは多いにある。
 - 高知市ではなく、山、海に近い地区での開催が多いようである。郷土愛を育てたいという思いが強い地域であるほど、こういった地域を理解しようとする教育の機会が多いのかもしれない。それはそれで学ぶべきところがあるが、高知市内にもこういった活動が増えるためには、学校任せというだけでは広がっていかないようにも感じる。
- ・ 今後、海洋高校や地元黒潮町の学校とかでも今回行ったような講座が実現できれば、若い世代との接点も生まれ、新たな雇用や地域起こしにとっても有益になる。いろんな接点を行政や教育機関にも検討してもらいたい。
- ・ 10月ごろは各イベントが多く、こういったイベントは5・6月ごろのほうがやりやすいようだ。
- ・ 漁業だけでなく、それぞれの視点、情報を深めることができればもっといいものになるだろう。
- ・ 資料や情報を整理し、改めて形にできないかということを考えたい。
- ・ 教本として配布する、まずは県民会議メンバーが出前教育を行う、といったことも必要だろうが、いずれは学校などが自主的に使ってくれればいいと思う。
 - ✧ 引き続き中身を深めていけるよう、各情報を取り入れていく。

4. アニサキスの影響について情報交換

- ・ 関東では生を避け冷凍を使ってほしいといった推奨がされており、スーパーや小売店などでは生のカツオを取り扱わない企業が増えているとの情報がある。
- ・ もともとアニサキスは存在しており、以前ならば食中毒が出て「当たった」とかといった話で済ませていたが、
- ・ 被害を保健所に届け出するようになったこともあり、一気に広がったかのように伝わり、風評被害も大きいかと思われる。保健所は危ないものには触れるなという方針だろう。
- ・ 今はマグロ漁が主であるため大きな影響は出ていないが、アニサキス=カツオのような誤解で生カツオを避けるような動きが続くようならば、秋冬にかけてのカツオ消費に多大な影響が出る可能性がある
- ・ アニサキスは船上では見かけない。鮮度や温度管理が行き届いていないと胃袋から出てきて、身に移動していく。ワールドチェーンがしっかりできていればそういった心配がないのかもしれない。
- ・ もともとはクジラが宿主でそこから出た糞などから連鎖で広がっていったようだ。
- ・ 科学的な機械や数値などの根拠に基づいてアニサキスがないといった情報を知ることができれば、そういった情報を提供することも必要かもしれない。
 - ◇ 情報をしっかり理解し、発信できる内容が無いかを確認する。

5. 次回予定

- ・ 次回については期間が開き過ぎないようにしたい。
 - ◇ 次回開催について、8/31（金）を候補にして進めたい。

以上